

学校法人安見学園

板橋富士見幼稚園自己点検評価報告書（S票）

はじめに

板橋富士見幼稚園自己点検評価は、文部科学省が示すガイドラインに準拠した点検項目に従い、短期大学基準協会の自己点検評価方法に準じて、点検項目を構造化し、全教職員の1年間にわたる保育について、A票からM票の項目に従い点検し、N票からU票までを総括評価として集約し、S票に総合記載します。平成21年度から継続実施自己点検評価を実施しております。今年度は、令和元年度の自己点検評価として公表するものです。板橋富士見幼稚園の幼児教育について、ご理解とご協力を賜り、今後ともご尽力くださいますようお願いし、年度報告といたします。

学校法人安見学園理事会

令和元（2019）年度

板橋富士見幼稚園における自己点検評価

（集約 M票・N票・O票・P票・Q票）

板橋富士見幼稚園概要

学校法人安見学園は、昭和6（1931）年4月開園の私立保育園・富士見愛児園園長安見七郎氏により富士見愛児園清水分園として、昭和26（1951）年4月宮内省恩賜を受け設立された保育園です。

その後、安見七郎氏による寄付行為によって、平成15（2003）年3月31日、東京都の認可を受けた学校法人として歩み始めました。

創立者 安見七郎氏は、地域の子どもの教育の場として、恒久的にこの地を維持することを目的に、板橋区宮本町29番1号に設置しました。

平成15（2003）年4月1日をもって、学校法人安見学園が運営する幼稚園として、初代園長安見七郎氏から、当時園長代理として在勤していた本学園の理念精神を最も理解している次男安見克夫氏に引き継がれ、理事長・第二代園長として現在に至っています。本幼稚園は、地域の子どもの質の高い幼児教育を保障するため、文部科学省が示す幼稚園教育要領に準拠した、園独自の教育課程を編成し、遊びを中心とした幼児主体の教育を有識者の協力のもとに作り上げ、知的発達及び非認知能力の高い人格形成の基礎を培える保育を展開しています。その結果、自分で、考え、工夫し、やり遂げる力と豊かな心の教育とのバランスのとれた高度教育を実施し継続しています。

園内のすべては、子ども達の成長のために提供されている自然環境であり、この中で3

年間共生することで、小学校への道を拓く接続保育を目指しています。

■在籍状況（5月1日現在）

年度	平成29年度	平成30年度	令和元年	令和2年度
在籍数	165名	157名	156名	158名

根拠書類 在籍異動報告書・在籍原簿・出席簿

■ 入園応募者状況

令和元（2019）年度募集状況（平成30年11月1日現在）

平成30年度4月からの入園希望者の推移状況と入園確定者数は以下の通りである。

入園選考については、定員まで先着順に受付し、身体発達検査（適性）及び入園面接を持って合否判定を行い、入園児を確定している。適正枠から外れる幼児については、判定保留児とし、再度2月期に再検査及び集団保育を行い入園の合否としている。尚、11月1日考査当日に不合格となった場合は、補欠申し込み者5名を繰り上げ、後日適性と考査を実施し入園を許可している。入園考査手続きについては、本年度も前々日から夜通し並ぶ姿があった。

令和元（2019）年度応募状況（平成30年度11月1日現在）

見学者訪問状況	4月－7月期	9月－11月期	12月－3月期
案内書配布状況	15	100	10
入園応募状況		65	
募集人員		60	
入園確定者		56+5	

根拠書類 入園合格者異動状況票

入園希望者に対し、板橋富士見幼稚園の理念及び精神について保育内容の具体的活動を示しながら、個々の入学予定見学者を対象に入園前に教育方針等の説明を実施している。このために入園志願者の説明見学者と入園案内書配布率は、100%で、入園見学者の入学応募率は98%である。

■ 教職員組織

園長	1 ※	ITオペレーター	1
副園長	1 ※	預かり保育教諭	3
事務長	1 ※	体育講師	1
主任	1 ※	心理相談・保育指導講師	1
副主任	1 ※	英語講師	1
指導教諭	1 ※	心理相談員（非常勤）	2
教諭	9 ※	医師	1 ※
		歯科医師	1 ※
		薬剤師	1 ※

18（届出済）※

教職員数 27名

根拠書類 教職員異動状況票

本園の教育は、教育理念と教育方針及び精神を受け継ぐ教員組織によって成り立っている。幼稚園教諭免許と保育士資格を持つ一種免許を持つ教員と二種免許を持つ教員によって組織されている。経験年数は、10年以上の教員が3名・5年から10年目の教員が6名、1年目から5年目までの教員が4名である。

■ 保育室及び運営室配当表

保育室			園長室	1	職員室	1	事務室	1	便所	2
3歳児	4歳児	5歳児	給食室	1	保健室	1	相談室	1		
2	2	2	遊戯室	1	図書室	1	集会室	1		

根拠書類 学校基本調査

■ 教育課程外教育（預かり保育）実施状況

開園日に伴う預かり保育の実施状況

本園では、月曜日から金曜日の毎日（午後2時15分から5時15分まで）実施している。預かり保育担当教諭は、保育士・幼稚園教諭資格者3名が交替で対応している。

本園の預かり保育は、会員登録制で年間実施率（開園日95%）である。保護者の利用回数は、増減が大きく年間平均は20名程度（一日の最大利用者数60名・最小利用者数2名程度）が利用している。本年度の利用者総数は3312名である。教育課程時間

から教育課程外時間に移行する際、健康チェックカルテが担当者に申し送られているため、個々の子どもの健康状態については連携把握が可能な状態である。システム等について、保護者からの意見聴取をするも、特に改善を要する事項は見られない。

根拠書類 私学助成金申請B票

板橋富士見幼稚園の保育コンセプト

資料1

設立母体は、昭和6年に東京府板橋区板橋十丁目2372番地に設立された戦時保育所の私立富士見愛児園である。当時は、戦災孤児をはじめ保育に欠ける子どもたちの収容措置施設であった。その後、宮内省より天皇陛下の御賜金を賜り昭和26年4月富士見愛児園の分園として板橋区清水町に富士見愛児園清水分園として保育施設が増設された。

その後、昭和47年地元の要請により、幼稚園として私立板橋富士見幼稚園と改名し、学校教育の道を歩み始めた。そのため板橋富士見幼稚園は、設立母体である富士見愛児園の建学の精神と保育理念である、「保護者と共に歩む保育」「人に優しさを与える保育」「子どもの主体を保障する保育」を具体して、以下の標語を掲げ、ここに集う教員は、「富士見ファミリー」の一員として、自覚しその理念と精神を受け継ぎながら教育を実施している。

【幼稚園要覧】 【標語】 参照

建学の精神と教育の理念

資料2

板橋富士見幼稚園は、幼児を保護し最善の利益を保障する保育施設として、教師と保護者が常に一体となって、子どもの発達を助長させていくために保育・教育の向上を図る。

- ・子どもを大事にする保育を目指す。
- ・親を大事にする保育を目指す。
- ・保育者の奉職の精神をもって、保育に専念する。
- ・繊細な心が宿る保育を目指す。

標語

心 愛 健 美

子どもの育ち

「心」心の美しい子ども・「愛」だれからも愛される子ども
「健」健康な子ども・「美」明るく天真爛漫な美しい子ども

これは板橋富士見幼稚園において、子どもの育つ具体的姿を描き、昭和6年創設者安見七郎先生が、標語として残されたものである。この標語に秘められた教育理念に基づき、実現に向けた教育目標を定め、その目標の具体的姿から保育のねらいを定めている。本ねら

いを基に、平成29年度教育課程が編成されている。各教職員は、この教育課程のねらいの実現に向けて、年間指導計画を作成し、月計画・週日案を立案し、個々の幼児の発達を踏まえた指導をおこなうことが義務づけられている。

このことについて、学園理事長及び園長から新学期辞令交付とともに、文書音読で園の精神と保育理念について講話【年間指導方針資料】があり、全教職員が取り組むべき具体的な保育方法について周知伝達される。また、毎日始業前に10分間の園長からの朝会が行われ、随時、保育の取り組み方や本園の教育精神について訓示する場が設けられている。園長からの指示伝達や、教育の進め方、評価、課題などについて、各教員は記録し自己の成長に役立てている。

根拠書類 板橋富士見幼稚園保育内容研究資料150・入園案内・幼稚園サポートブック・入園のしおり

ディプロマポリシー

板橋富士見幼稚園の教育目標

資料3

- | | |
|-------|--|
| 目 標 | <ul style="list-style-type: none">・明るく伸びやかな心の育ちに・仲良く元気に遊べる子どもに・あきらめずやり遂げる力と優しい心に・しっかりとした生活習慣の獲得に |
| 目標の具体 | <ul style="list-style-type: none">・自分から遊びを創れる子どもを育てる。・様々な事象に触れさせ繊細な心を育てる。・互いを認め合える優しい心を育てる。・一生懸命に取り組める子どもに育てる。・生活に必要な習慣が身につくように育てる。・豊かな感性が身に付くように育てる。 |
| ね ら い | <ul style="list-style-type: none">・優しく思いやる心が育つように・あきらめずにやり遂げる力が育つように・自信が持てるように |

板橋富士見幼稚園の教職員教育（初任者研修）

資料4

着任教諭に対する研修については、園長から直接、一週間の図上教育が実施されている。内容は、教育の理念と精神及び保育の具体的考え方と指導方法について教示する。また、副園長及び主任等を通じ、保育内容及び園の教育姿勢と、経営に関する内容を実地で指導するなど、板橋富士見幼稚園の理念・精神が、教育が円滑に活かされていくよう研修して

いる。また、該当年度の学期の始めの始業開始日初日に、園長から新年度の教育方針と共に、園の理念や精神について、全教職員に講話がなされている。その他、毎日【月曜日から金曜日】保育開始前に園長より朝会が行われ、保育の考え方・保育への見通し、安全、そして実践内容や本園の教育理念や保育者としての精神などを教示している。その他、教職員には、板橋富士見幼稚園保育内容研究資料（P P 1－1 5 0 項目）の指導の考え方や目標に向けての具体的指導法が記述された教育マニュアルが配布されている。

根拠書類 板橋富士見幼稚園保育内容研究資料集・入園案内・幼稚園サポートブック・入園のしおり

教育課程の実現状況

教育課程に示すねらいと内容について、学期毎に総括会議を実施、それぞれのクラス担任から、教育課程のねらいと内容の実現状況を4段階評価でチェックしている。学期内に実現できなかった項目については、次の学期内で実現するよう表記するなど課題として捉え、実現された項目については、項目欄を塗りつぶし、半分程度・4分の1程度の場合は、その旨の塗りつぶしの表記を以て実現状況を細かく評定している。結果、現在活用している教育課程の表記は、具体的に記述されているため、教職員会では、実践に生かしやすいとの評価があり、指導計画作成及び、中期・短期計画の立案に充分機能しているといえる。実現状況については、最終学期の総括会議において、1年間の実現状況はほぼ9割の内容が達成されているとしている。

なお、平成28年改訂された教育要領の「資質と能力」の育成について、**板橋富士見幼稚園教育課程**においても、同時に改訂し、「幼児の終わりまでに育てほしい10の姿」の保育方法について、平成30年度4月当初に全教員に対して周知し、その取り組みを開始したところである。なお、本園は、入園の説明会を開催していない。その理由として、本園の教育方針について深い理解を持ってもらえる保護者に入園を期待しているためである。そのため4月から年間を通じ、個別に来園し見学してもらえる方法を取り入れ、実際に保育する姿を通して、園長および副園長が、3年間の保育について説明し、納得の上入園してもらっている。したがって教育課程の実現状況は、入園の際に説明した保育内容とその指導について、卒園式の際に保護者から「園長先生のおっしゃった通りの保育でした。」と感謝される方が多く、教育の実現が順調に行われていることが推測できる。

根拠書類 (学期総括会議個別資料及び会議録G--20) ・ (個人観察記録「青票」G--21)

第一集約報告書

保育内容報告書

A 票

保育内容は、教育課程に定めているねらいを達成させるために、各学年で年間指導計画が策定され、この年間指導計画のねらいの実現に向けて、月案・週日案が起案され、保育されている。それぞれの教師は、ねらいの実現のために環境を整備し、一人一人の個の育ちとクラスでの取り組みに対する指導と援助を行い、週日案兼保育日誌及び定点保育記録から、①「教師の働きかけ・行動」②「教師の意図・ねらい」③「読み解き・結果」④子どもの動き・行動」⑤「内容」である環境の構成及び再構成と今後の課題を意識して記録されていることが確認できた。また、学期総括会議における各学期のねらいと内容の実現状況は、ほとんど達成されていることが確認できた。但し、一部の内容に係る活動が、天候や気候の変化及びクラスの発達や成長の変化から、遅滞・延期など多少先送りするなど、実現できていないものも見られており引き続きの課題となる。

根拠書類（保育日誌「週日案兼保育日誌」A-1）（定点保育記録A-2）（教育課程・指導計画A-3）
（職員会議録A-4）（学期方針伝達資料A-5）

行事総括報告書

B 1 ・ B 2 票

年間実施される行事の指導計画における目的及びねらいの実現について、全体会での省察では、定例職員会議で改善を要する事項があるものの全体としてはねらいと目的が達成されていると結論づけられている。（行事報告書B票）なお、各クラスでの取り組みについては、週日案兼保育日誌の振り返りから、概ね達成できたとしている。しかし、幼児の発達の差において、もう少し取り組みに段階的な差が必要なのではないかとの意見があり、クラスでの保育の在り方について再検討され改善への道が開かれた。

根拠書類（行事指導計画B-6）（保育日誌B-7）（定例職員会議議事録B-8）

有識者評価報告書

C 票

（臨床心理士）の指定非常勤講師5名と不定期非常勤講師2名で指導をお願いしている園内研修会での、有識者の意見及び提言については、毎回、改善すべき事項と実践保育に対する教師の関わりについて、丁寧な指導助言を受けている。

その結果、本年度においても板橋富士見幼稚園のきめ細やかな保育は成熟期にあり、十分に質の高い保育を展開できていると有識者の評価を受けた。具体的取り組みについては次のように評価している。

登園時、所持品の始末を終えた子ども達は、前日あるいは以前から継続している遊びを速やかに始める姿が見られ、この行為について、子どもの遊びの習熟性が高くなければ、このような様子が見られないと高く評価している。

根拠書類（有識者評価報告書C-9）

園内研修報告書

D 票

令和元年度の園内研修会は、年間2回一学期と三学期に実施された（一学期は7名、三学期は4名の指導助言者が来園）。当日の園内研修ではクラス毎に主題設定され、保育中に参観を実施し、午後から研究協議会を行った。その際、月案・週案・前々日及び前日の子どもの行動記録と当日の日案を作成し、実践保育に参加した。午後の研究協議会では、本日の課題とねらいの実現状況に対して、各担任から実践の報告が行われ、指導助言者から指導のあり方について、一人ひとり指導を受け、今後の保育への課題としている。園全体としては「遊びや関りが生まれる空間」となるような環境構成を心掛けていく重要性について指導を受けた。また、環境構成後の継続性や環境の再構成について追及していくことを次年度の課題とした。

根拠書類（指導計画等 D-10）（保育記録 D-11）（指導者助言 D-12）

保育参観報告書

E 票

6月期と11月期に保育参観を実施している。2クラス毎に3日間の予定で実施、子どもの成長と保育内容について参観してもらっている。参観終了後、「保育参観アンケート（記名式）」を配布し、1週間程度で回収を行っている。回収率は（平均90%～40%）と幅はあるものの、比較的高い回収率を示している。アンケート内容から、「子どもの成長が、はっきりと見える。」「昨年や前回との保育参観の差が顕著であり、我が子の成長が見られた」という感謝の言葉など、肯定的な評価が多く寄せられた。しかし、参観アンケートの未提出者についての評価は決して前向きな評価だけではない可能性もあることから、未提出も含め真摯に受け止める必要があると考えている。

根拠書類（指導計画 E-13）（保護者アンケート E-14）

安全点検報告書

F 票

毎年年度初めと9月期はじめの2回に渡り、全教職員が園舎内及び園庭の環境構成と遊具の安全使用の有無及び突起物等の安全点検項目に従って点検し報告書を作成している。点検結果として、一時使用を禁止し安全のためにツリーハウスの周囲（主に背面）にフェンスを設置した。そのため现阶段では、特に問題とする指摘事項は認められない。その他、器物安全チェックリストにおいて、新学期開始前に、安全点検を行っている。避難訓練は、火災訓練と地震の訓練を毎月実施し、自ら安全に見を守る行動が身につくよう心がけると共に、設備等の安全点検についても年3回実施し、すべての安全に配慮し点検を実施し確認している。

根拠書類 備品管理台帳（安全点検確認票 F-15）（消防計画書 F-16）
（事故報告書 F-17）（訓練記録 F-18）（自衛消防訓練計画・報告書 F-19）

個人学期総括会議報告書

G 票

学期毎に、学期総括会議が実施され、3日間（内2日が個人総括・1日が行事総括）が行われている。令和元年度の個人総括では、個々の親からの不安や期待に対して丁寧に説明を行い理解されていると総括で述べられている。総括において、今後若干課題を残す子どもの取り組みについては、保護者と連携し、教職員全員がサポートしていく体制を整えている。なお、総括では、一学期に話し合われた課題について、二学期の保育の中で、取り組んでいけるよう指導計画の見直しを行い、特に個別的な援助や保育を重視していくなどの対策が取られている。

根拠書類（教育課程編成会議資料 G-20）（個人観察記録「青票」資料 G-21）

教育研修報告書

H 票

本園は、教職員の資質向上に向けて、年間研修及び研究開発への取り組みを義務化している。そのため各教員は、年間にわたり派遣研修及び指定特定研修・園内研修・学会発表及び教養文化研修などに参加し、様々な分野について学術・教養の学ぶ機会を得ている。令和元年度は主に夏期に実技研修・理論研修など積極的に参加させ自己研修の機会を設けている。

園での新規採用者に対する研修体制は、原則として2週間（14日間）の新任研修が義務づけられている。研修内容は、図上研修5日と実地研修10日とし、図上研修では、「板橋富士見幼稚園保育内容研究資料」に基づき、本園の教育理念や精神・教育課程などを直接園長・副園長から解説を受ける。そのほか、本園独自の教育メソッドなどについて学び、その後、クラス担任の指導の下で実践的研修を行っている。

根拠書類（研修会参加報告書 H-22）

危機管理対策報告書

I 票

板橋富士見幼稚園では、コンプライアンスに従い、危機管理マニュアルを基本計画として策定してある。災害の発生に伴う①「防災基本計画」②震災の発生及び予知発令に伴う対応「大規模地震発生に伴うマニュアル」③緊急地震速報に対する「緊急地震速報覚知対応マニュアル」④預かり保育中の地震発生に伴う「預かり保育地震発生時の対応マニュアル」⑤宿泊保育地震発生に伴う「お泊り保育地震発生時対応マニュアル」⑥火災発生時に対する「火災発生時防火対策マニュアル」⑦日常保健衛生に関する習慣や、インフルエンザや

流感および出席停止になる事項について「保健衛生感染防止対策マニュアル」を作成している。また、緊急時心肺蘇生の必要について⑧「AED 心肺蘇生対応マニュアル」などが策定されており、学期ごとや定例職員会議等で読み合わせし、図上や実践的訓練を実施している。今後の課題として、定時での火災発生対応訓練や地震発生対応訓練などで、素早い行動が取れるものの、マニュアルに従って行動することに誤りも見られることから、日々読み合わせなどを行い、また、実地訓練などを積み重ねておく必要がある。

根拠書類（訓練計画書 I-23）（危機管理マニュアル I-24）（訓練報告書 I-25）

個人面談前期・後期報告書

J 1・2 票

個人面談は、全クラス一斉に6日間、7月期と2月期の年2回、保護者との直接面談を行っている。5日間は、園側から面談日の通知を各個人宛に通知し、一人15分程度で、7月期は、4月から7月までの子どもの成長過程、特に著しく成長した姿などを伝え、保護者からも、園に対しする希望や要望などをお聞きし、今後の保育に役立てている。後半は、9月期から2月までの成長について個別面談を行い、進級進学に向けて保護者が不安にならないよう、学年の目標に対する成果をしっかりと伝え、信頼頂けるようきめ細かくお話し、今後の保育の協力を求めている。前期、後期共に、面談の結果、令和元年度については保護者からの意見や希望は、特に寄せられていない。

根拠書類（学期総括自己点検報告書 J-26）

地域連携活動報告書

K 票

本園の地域活動は、子育て支援センターとしての役割を軸とし、近隣で子育てしているご家庭に対して、「ふじみサラダボール」を開催している。サラダボールとは、カナダで地域の子育て支援の名称で、サラダの一つのボールの中でいろいろな野菜同士が醸し出す味わいをたとえ、他民族の集まりの総称としている。このことから本園でも、その名称を取り入れ命名した。毎週水曜日の午後1時30分から3時まで、年間開催している。サラダボールの会は、登録者は150名ほどで、参加者は、24名から32名までで、1から2クラスを現職教員が交代で担当する。自由遊び・製作遊び、ブレイクタイムとしてコーヒーや紅茶、お子様には麦茶とおやつを支給し子育て交流をした後、園長が毎回発行している「ふじみ子育て通信」をレクチャーして会は終了する。また年に一度、サラダボールクリスマス会を開催し好評を得ている。

子育て相談については、いつでも・誰でも、相談を受けることができる。園では、園長をはじめ、臨床心理士との相談が多く、年間10名程度の子育て支援相談がある。その他、「板橋区の子育ての駅」で子育て中のお散歩途中に立ち寄り、おむつ交換や授乳・ミルク作りができる用図書室2階に子育て支援室がある。実際の活用状況は、少なく、トイレに立ち寄ることが多く見られる。

根拠書類（図書管理用 K-27）（サラダボール 指導計画・記録 K-28）
（クリスマス会指導計画書・評価票 K-29）（インターネット K-30）

保護者連携報告書

L 票

板橋富士見幼稚園では、保護者の会として「母の会」が組織されている。各クラス2名の代表者によって組織され、園の教育推進に寄与されている。園と保護者とを繋ぐ情報誌として、クラス便りがある。毎月はじめに、今月の取り組みやクラスでの出来事などが掲載されている。また、園便りとして、園長が毎月の終わりに、その月の出来事・次の月の行事予定・補助金等のお知らせ・子育てに必要な情報など、生活全般にかかる情報を発信している。

また、一人一人のその月の成長記録として、連絡帳がある。この連絡帳を介して、保護者とクラス担任との意思疎通を図り、教育が円滑に進められるよう配慮している。その他、個人面談において、園に対する要望や、ご家庭でのお子様の様子などをお聞きし、保育に生かせるようにしている。

令和元年度は、特に園に対する改善等は寄せられていない。

根拠書類（クラスだより L-30）（連絡帳 L-31）（園だより L-32）（インターネット K-33）
（母の会だより・会議録 L-34）

社会貢献活動評価報告書

M 票

1. 子育て支援相談

令和元年は約年間10名程度の子育て支援相談を受け付けている。

在園児・卒園児・近隣で子育てしている保護者から子どもの発達相談が多く、臨床心理士・言語心理などの幼児教育専門分野の先生から相談が受けられる体制が整っている。相談費用は、すべて無料である。相談内容については守秘義務から公表できない。

2. 出版物

板橋富士見幼稚園では、園での保育内容について、出版物を通して、広く公開している。

日本教育新聞・学研・鈴木出版・チャイルド本社・ひかりのくになどに直接的・間接的に本園の教育の取り組みについて掲出している。現在、株式会社メイトの指導計画の執筆及び監修を行い、本園の指導計画を公開している。

3. 講義・講演活動

令和元度は園長の全国での幼児教育に関する講演活動をはじめ、社会貢献活動に参加している。

その他、子育て支援サークル活動（サラダボール）を年間開催し、毎週園長が発行する子育て情報誌を発行し、子育ての支援活動を行っている。

板橋富士見幼稚園

第2集約評価報告書

保育内容総括評価報告書

N 票

- ◆ 令和元年度総括を行った結果、安全に対する大きな事故は、発生していない。
- ◆ 行事については、教職員が担当別指導計画案を立案し、教育課程に生かすことができていた。
- ◆ 春・秋の遠足（戸外保育）においても、当初の目標を達成することができた。
- ◆ 園内研修も、年間2回実施し、その他本園の教育センター長のランチセッションを数回開催するなど教職員の資質向上につながった。
- ◆ 運動会は小学校の校庭をお借りし、母の会・保護者の全面的協力の下で、成功裏に終わることができた。資材搬送に、保護者の方が自家用車を配車してくださるなど、園への協力が得られている。
- ◆ 新春餅つき大会では、保護者のお父様や園外の方など10数名が協力しての餅つきが開催され日本の伝統行事を楽しむと共に、日本の文化を学ぶ機会となった。
- ◆ 火曜日に体操日が設定されており、運動会の種目と運動する楽しさを幼児が学びとってもらえるよう、楽しい運動遊びの指導を行っている。特に問題となる指摘はない。
- ◆ 木曜日に設定されている英語の先生と遊ぼうでは、異文化交流の機会として、英語を使った手遊びや、出身国の文化について子ども達と英語で遊ぶ一日を設けている。子ども達は、英語の先生に積極的に話しかけるなど、楽しい一時を過ごしている。
- ◆ その他 夏季保育のプールでの水遊びや、作って食べようなど、夏の夏季保育にふさわしい遊びを楽しみ、体力の向上や、爽快感、達成感、満足感などを培うことができた。
- ◆ 令和2年2月ごろから新型コロナウイルス感染症の拡大が見られ、園児及び教員の生命の安全を考慮し、お別れ遠足については実施を見送り、卒園式は縮小しての実施とした。

（集約 A票・C票・D票・E票・G票） （根拠書類 F票 I

票）

安全管理総括評価報告書

O 票

板橋富士見安全管理マニュアルに従って、おおむね達成しているものの、教職員の初動体制や、実際の時にどの程度迅速に各自が対応できるか難しく、今後どのような非常事態が発生しても、瞬時に初動体制が取れるよう訓練を重ねていきたい。そのために、今までの図上訓練および実地訓練などを重ね、幼児の生命の安全をしっかりと確保し、事故のない業務体制を整えていきたい。

特に、直下型の大地震の発生に対する体制や、不審者侵入における阻止予防体制などは、

しっかりと取り組んでいく課題であると認識している。また、アレルギー対応については、教職員は研修を受け、エピペンの使用訓練を会得しており、平成28年に発生した病気による緊急体制では救急隊員との連携も迅速につながり生命の危険を回避することができた。また園には、非常用酸素吸入器・血中酸素飽和測定器・AED等の非常機器が用意されている。平成30年度からは、疾病等による緊急事態発生に対して、発生時から、客観的に、様態・対応・測定数値などを記録し、より迅速な対応ができるよう見直しを行っている。

(集約 A 票・ B 票)

特別支援教育総括評価報告書

P 票

本園の特別支援は、インクルーシブ教育を軸とし、特別支援教育チームを編成し、定期的に対象児に対するカンファレンスを実施している。特別支援を要する(保護者認定児)の幼児の保育支援の方向性を検討し支援している。(文部科学省140年記念誌に本園の組織体制を掲出)令和元年度は5歳児1名・4歳児2名・3歳児1名が在籍している。年2回程度定期的に三者面談を実施し経過を報告し、保護者と共に、今後の支援方向性と期待について話し合いを重ねている。進級と共に、生活習慣等の獲得については、顕著に改善が見られると共に、対人関係などについても、良い成果が期待されてきている。インクルーシブ保育の実現のため、担任と保護者および他の教職員との連携を密にするとともに、特別支援教育チームの先生方と共有しながら、保育している。

(集約 K 票)

地域連携総括評価票

Q 票

近隣関係者との連絡を密にし、幼稚園の行事である「杏の収穫祭」では、子ども達が手作りしたあんずジャムをお届けするなど、子ども達との交流を図り幼児教育の理解をお願いしている。また、お餅つき会などでは、保護者のお父様方や卒園生のお父さん方、出入りの業者さん達などが積極的に参加して下さり、毎年10名以上のお父さんがお手伝いくださっている。つきたてのお餅をご近隣に届けている。

また、町内会のお祭りなどで配布している菓子などを、町会長さんを通じてご寄贈して下さったこともあり、近隣との連携を深めている。また、園長は板橋区教育委員会の要請により、板橋第八小学校の学校運営協議会委員を努め、年度末では近隣小学校との園児と児童との交流会を行うと共に、教員同士による会合を持ち、接続期のスタートカリキュラムやアプローチカリキュラムについて話し合う機会を持っている。

(集約票なし)

メンタルヘルス評価報告書

R 票

本園では、全教職員のメンタルヘルスについて、年間、数回の全教職員交流会を開催し、教職員間の意思疎通を図り親睦を深めている。常に笑顔のある明るく楽しい保育を実現するために、こうした機会を通して個別に園に対する要望や、保育を進める上での悩みなどを互いに話し合い、時に園長・副園長および主任が中心となって、心のケアを行うなど、日々の保育が精神的に安定した中で展開できるよう個々のメンタルヘルスを重視している。そのため現在、特にメンタルヘルスに関する指摘および課題は提示されていない。

教育研修総括評価報告書

T 票

令和元年度は、夏季休暇を活用し、公益財団幼少年教育研究所が主催する研修会に参加し、学びを深めた。その他 教職員は、自己選択できる自主研修に参加し自己の保育力の向上に努めた。特に、平成30年度から実施される、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」などについて学び、教職員は、指導計画を計画し、その計画に基づき、保育実践を行い、毎日、その結果を省察し、一人一人の子どもの今日の成長について、課題を抽出し、明日の保育計画に生かし取り組んでいる。

令和2年度次年度への課題

令和元年度の自己点検総合評価は、次のとおりである。

1. 教育課程の実現状況

毎年、学期総括において、在園児全員の教育に対する達成域について一人一人「個人発達記録簿」を基に検討され、著しく成長を遂げた姿について報告がなされている。その結果、年間すべてについての的確に保育が行われており、保育そのものは成熟しているが、一人一人の活動に対する評価は、おおむね達成されているものと評価された。しかし今後、その達成について、具体的且つ客観的な育ちを保護者と共有していくことが、さらに求められるところである。また、小学校接続期についての幼小との交流の強化と、双方の保育授業参観など検討していくことが求められる。

2. 事業運営状況

本園は、一人一人の発達を保証する意味から、教育体制は、3歳児1クラス3名の正規教員が担当し、余剰教員3名が全クラスを担当している。入園時期当初は、4歳児に保育補助として入り、きめ細やかな保育をおこなっている。特に、3歳児クラスは、入園翌日より、3ヶ月間毎日10名の教員により、カンファレンスを行い、課題のある幼児に対しては指導を共有し、改善が見られるまで全員の教員が担当していくこととなっている。また、幼児全員の個人発達記録簿が作成され、発達上、遊びや生活の中で、顕著に見られる姿について記録され、個人面談や学期総括会議において、全教員でカンファレンスが行われている。

3. 環境教育整備

令和元年に全保育室内に洗浄式冷水機の設置が完了した。

ツリーハウスについて一部老朽化が進んでいたため、

保育室内環境は、すべて冷暖房が設置され、コンプライアンスに従い幼児の安全な施設となっている。そのため、定期的目視検査を学期のはじめに行い、安全点検を行っている。その他、動植物についても毎日管理し、子ども達に取って魅力ある遊び素材として提供できよう務めている。

理事会報告

U 票

令和元年度の「自己点検評価報告書」が令和2年6月に完成し、ホームページに公開する。学校関係者評価委員会（仮称）については令和2年9月に組織編成する予定であったが委員会規定の作成が遅れているために、本年度は自己点検評価だけにとどまった。

本園の運営について報告した結果、板橋富士見幼稚園の保育全体に対して、特に指摘する事項はなく学校法人学園理事会に提出する。

(根拠書類 自己点検評価報告書 S 票+財務資料)

行政監察評価

東京都私学部監査局監査報告

V 票

令和元年度は9月24日に東京都の監査事務局によって、平成28年度・29年度・30年度における過去三年間の業務監査が実施された。その結果、特に指摘される事項はなく、的確であることが承認された。

※本報告書は、板橋富士見幼稚園教職員会（規定委員会）に置いて作成されたものである。

令和2年6月発出